

屋久島

Yakushima



世界自然遺産の登録区域



大川の滝
屋久島最大の滝で、88m の落差で大量の水が豪快に流れ落ちていく。日本の滝百選に選ばれている。



ヤクシカ
ニホンジカの亜種。全島的に生息し、人里近くの照葉樹から1,600m以上の高標高地まで広く分布する。

屋久島は、九州本島最南端から南に約60km、東シナ海と太平洋の間に位置しています。島の中央部には、九州最高峰の宮之浦岳(1,936m)を主峰とする山岳が連座し、その山腹を多数の河川が深い谷を刻んで流れています。温暖多雨な気候で年間降水量は平野部で4,000mm、山頂部では10,000mmを超えるといわれています。世界遺産登録区域はこの屋久島の中心部から西の海岸部におよぶ約10,700haです。



縄文杉
現在確認されている中で最大のヤクスギ。縄文杉を含むスギ原生林が特別天然記念物に指定されている。荒川登山口から縄文杉までの行程は往復9~10時間程度かかる。幹周り16.4m、樹高25.3m、推定樹齢2,700年以上。



屋久島環境文化村センター
屋久島の自然と人々のくらしを、模型、パネル、ビデオ映像、実物展示などでわかりやすく紹介する。1996年鹿児島県、屋久島町(旧上屋久町・旧屋久町)設置。

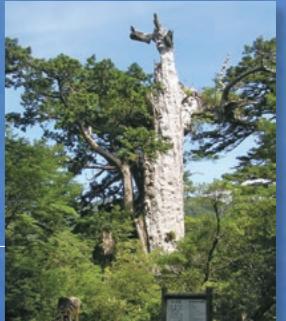


ウイルソン株

幹周り13.8mで屋久島最大の切り株。約400年前に伐採されたといわれる。中は10畳ほどの空洞で泉が湧いている。ヤクスギの存在を世界に報じたウイルソン博士にちなんで命名。



白谷雲水峡
渓流沿いに広がる苔むした原生林を鑑賞できる自然休養林。散策コースが設定され、渓流や原生林、推定樹齢3,000年の弥生杉などを見ることができる。



紀元杉

シャクナゲやツツジ、ナナカマド、ヤマグルマ、ヒノキなど十種以上の植物が紀元杉に付着して生育している。幹周り8.1m、樹高19.5m、推定樹齢3,000年。



ヤクシマダケ草原帯

スギの樹林を上りきると、一面に開けたヤクシマダケ草原帯に入る。ところどころにヤクシマシャクナゲ、ハイノキ、アセビなど常緑や落葉の低木が群落をつくる。



屋久島世界遺産センター
2014年、世界遺産と国立公園の魅力を紹介する展示にリニューアル。1996年環境省設置。
*裏表紙参照



屋久杉自然館
屋久島と屋久杉を紹介する施設。樹齢1,660年の中屋久杉、杉伐採に使われた全長2mのチェーンソー、積雪で折れた縄文杉の巨大な枝などを展示する。1989年屋久島町(旧屋久町)設置。



ヤクシマミドリシジミ

屋久島を代表するチョウ。本州・四国・九州に生息するキリンミドリシジミの屋久島固有亜種。後翅の尾状突起がほとんど見られないのが特徴。幼虫は照葉樹林のアカガシ・ウラジロガシなどの葉を食べて育つ。



*「幹周り」は、地上から約1.3mの高さで計測した長さをいう。